



# 四電は電力不足を演出 原発再稼働なしで大丈夫

ると停電の懸念がある」という四国電力の言い分は、伊方原発再稼働したいがための「危機の演出」であり、デマンドレスポンス、融通などの四電自体が制度設計している手段を使えば全く問題なく電力供給できることが明らかにされました。

●世界に目を転じると、今や原発の発電量を太陽光が追い越し、地域で電力を産み出し住民がそのシステムを所有する「地産所有」の流れが地域に富を還流させ自治体や住民の暮らしを豊かにしています。その流れに逆らって原発に固執したフランスやイギリスの原発事業者は経営危機に瀕し、日本でも三菱重工や東芝は危機的状況に陥っていることも示されました。

今や、50%近く再生エネルギーが占めるドイツや80%近いデンマークのような

地域地域で供給する自然エネルギー電力が大規模に進み、蓄電技術も含めエネルギー供給のありかたが加速度的に転換されるであろうことが強調されました。



●さる2日、私たち県議団は飯田哲也環境エネルギー政策研究所長を招き『原発ゼロで拓く地域の未来』の講演会を開催。

「電力ピーク時に老朽火力発電所の設備が故障す

## 世界の趨勢は既に自然エネルギー



### キラリンにやんでも通信



張れ!

●娘・佳子の引っ越し&議員活動再開  
参議院議員の娘、佳子に赤ちゃんができたことから、狭い現アパートから、せめて家族が増え子育てできるスペースを持った住居へ移転しなければと、1月末に引っ越しを敢行。手伝いに上京しました。そして、二月二日に参議院本会議に出席、議員活動再開となりました。二人だけの子育ては大変でしょうが、仕事との両立に挑み頑

## 無料法律・生活相談

- 2月26日(金)午後6時~8時
- 皿田幸憲弁護士(高知法律事務所)
- 場所 愛宕商店街吉良事務所  
問合せ: 088-855-9439